

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 89 号 2022 年春号

2022 年 6 月 3 日発行

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行
発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415
<http://nadogaya-biotope.com/>

春はやっぱり田植えです！

今年の春は雨が多かったです、稲作作業は例年通りです



3月、4月の合同活動日に稲株踏み、4月16日に元肥（バイオ有機肥料）散布を行い今年の稲作作業を開始しました。3月19日

にウグイスの初鳴き、26日にツバメの初飛来も確認しています。例年より少し早かったです。今春は雨が多く、4月30日から畔の補修、田んぼ内の草取り、板均しを行い準備完了。

4日の朝に会員の影山（清）さんの軽トラックで藤心ライスセンターから苗を引き取り、5日に多くの会員でうるち苗の田植えを行いました。もち苗は「満月」（皇居で植えている品種と同じ）、うるち苗は千葉産の「コシヒカリ」です。（小笠原 智）

名戸小の稲作学習が3年ぶりに再開されました



ビオトープ田植え体験の感想

名戸ヶ谷小学校

5年1組

T.A

私達が、田植え体験を行った時、田んぼの泥に足が埋まったり泥だらけになったりして、私達が普段当たり前のように食べているお米にも一粒一粒が苦勞と手間を掛けている事に気が付き、農家さんへの感謝を、お米一粒一粒にも感謝を思い、残さずに食べたいです。

K.H

ビオトープで田植え体験は始めてやるので最初はドキドキして不安だったけど、田植えについてビオトープを育てる会の方に教えてもらってやってみたら時間を忘れるくらい楽しくかったです。だけど大変なこともありました。例えば同じ間隔を開けて植えるのが難しく、土に足を取られないようにすることが大変でした。その経験を生かして様々なものに対する感謝を忘れないようにしていきたいと思いました。ありがとうございました。

M.K

お米を作るのにものすごい時間と手間がかかっていて、お米一つ一つを大切に食べようと改めて思いました。また私達のためにお米を作っていた人たちがこんなに大変なことをやっていたと思うと、改めて感謝の気持ちが溢れてきました。体験させていただき、ありがとうございました！

5年2組

H.T

田んぼに入るとぶくぶくと泡が出てきました。それを見て、よし、頑張ろうという気持ちが出て、一生懸命頑張ることができました。生き物がいっぱいいて、本当にビオトープは自然を大切にしているのだなと改めて感じました。今までにないほどの、凄く良い体験ができて嬉しい気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

A.S

優しい人たちが、ビオトープは「命」の「場所」と言っていました。田植えをしていると虫がたくさんいて、ビオトープを育てる会の方々の虫たちを大切に一生懸命、自然を守ってあげたいという優しい気持ちが伝わってきました。私は身の回りの自然も守っていききたいなと思いました。

Y.A

田植えの体験ができて、田植えのやり方が分かりました。田植えを行っている方々は自分達のためにやってくれているから、凄いなと思って貴重な体験ができました。皆が食べてくれたら嬉しいなと、早く育たないかなと楽しみになりました。ご飯を食べるときは、いつでも感謝して食べられるようにしたいです。

ヘイケボタル幼虫の放流

4月16日土曇りのち晴れ、気温11度

朝9時頃は雲に覆われ次第に日差しが出てきましたが、気温は低かった。定例活動日で会員18名と多く、又「広報かしわ」の募集掲載をみて1名見学者が参加です。9時過ぎ、松清さんが飼育していたヘイケボタル幼虫の生態について詳しい説明があり、会員一同興味深く聞き入り、質疑などもあり有意義でした。それから約100匹を新会員の佐藤一美さん親子で、Aゾーンホタル水路へ放流しました。昨年とほぼ同数で田んぼから餌のサカマキガイをとり放流付近へ放ちました。既に餌となるカワナナなどは多く生息しています。今年も是非発光を期待したいと思います。(藤平 三郎)



ヘイケボタル幼虫



容器からホタル水路に放流



松清さんから生態について詳しい説明



寛ぐカルガモ番

春のビオトープ散策



3月28日、よく晴れ、日ごとに暖くなる季節、桜の花も咲き散歩日和であった。

妻と二人で朝のラジオ体操で体をほぐし、軽い朝食をとってから妻は仕事へ、私は散歩に出かけた。

リュックにカメラと水筒を詰め込み、腰に万歩計を着けて8時すぎに家をでた。いつものコースは柏斎苑・回生の里の裏道を抜け、名戸ヶ谷ビオトープをめぐり、増尾城址公園に抜けます。

名戸ヶ谷ビオトープでは朝の木道を歩くとギシギシと軋んで、新設の木道は木の香りがして足にフィットして心地よい。

田んぼにはツガイであろうか、カモが二羽、背黒セキレイが二羽、水の中を突いて餌をさがしている。近づきすぎないように注意して写真を撮っています。

白鷺などもよく訪れます。



家族づれが散策に来てはしゃいでいることもあります。

田んぼの株踏みも終わり田植えを待っている季節は、カエルの鳴き声やさまざまな鳥のさえずりと賑やかな季節です。

さて名戸ヶ谷ビオトープから増尾城址公園の遊水地へ行くとカワセミがよく見られます。キーキーという高温の鳴き声で豪快に水のなかへダイブし小魚を捕らえます。

この日は晴天で、桜とカタクリの花は同時期に咲くと聞いていたので、逆井のカタクリの里まで足を延ばしてみました。多少距離はありましたが田園風景とさわやかな空気を感じながら歩きました。逆井運動場の向かい側の坂を登る途中にカタクリの群生地があります。

可憐なカタクリが下向きに花を咲かせていました。



名戸ヶ谷ビオトープは私の散歩コースであると同時に柏の自然と環境を守る中核であり、活動を通して地域に貢献し、自然豊かな柏を残していくために、引き続きこの活動を繋げていきたいものです。 (倉岡 尊)

月例活動状況のお知らせ (3月から5月まで)

3月19日(土)

前日の雨から一転して暖かな晴れとなりました。内容は、A ゾーンの田植え準備の株踏みとホタル水路の整備です。多くの会員参加で作業は捗り、うるち田ひとつを残すのみとなりました。ぬかるみで足をとられ、泥んこになる人もあり大変でした。当日は新しく入会された家族会員や会員の知人も参加し指導を受けながら頑張っていました。



株踏み作業中



ホタル水路脇の草刈り中



株踏み作業後

4月16日(土)

広報かしわ募集掲載を見て1名見学です。作業開始は曇り空で次第に晴れたが、気温は低かった。まず始めにホタル幼虫約 100 匹をホタル水路に放流しました。それから、元肥の計量を行ない各田んぼへ散布です。同時に残ったうるち田の株踏みをし、全ての作業を終えました。アマガエルの声が多く、またカルガモの番が田んぼで動き回っていました。



ホタル水路へホタル幼虫を放流



元肥の計量作業



田んぼへ肥料散布

5月21日(土)

曇り空で作業の終わる頃には小雨が降り出しました。B ゾーンのヨシ、ミントの刈取り、A ゾーン休耕田のガマの刈取り、草刈り機による木道周辺の作業を行いました。終えてから生きもの観察会の日で、市民の参加がなく、松清さんから参加会員に、ビオトープの生きもの全般について説明を行いました。
(藤平 三郎)



Bゾーンヨシ、ミントの刈取り



ビオトープの生きもの全般の説明

新入会員の紹介

家族会員：佐藤浩さん、一美さん、陽菜詩（ひなた）さん

2022年3月の活動から家族会員で参加させていただきます佐藤と申します。

私どもは、娘の小学校入学を機に東京都中央区より柏市に引っ越してきたのですが、その理由の一つが「娘が生き物や自然が大好き」だったことです。

休日に手賀沼や桃山公園の水辺や田んぼなどに出かけては生き物や植物の観察など楽しんでいたのですが、そんなときに主人が名戸ヶ谷ビオトープをインターネットで見つけて連れてきてくれたのが昨年、そして久しぶりに訪れたのが今年の2月でした。

ボランティア募集の掲載を拝見していると偶然小笠原さんが作業にいらしてお話を伺い、参加させていただくことになりました。

初体験の稲の株踏みでは参加者の皆様と声を掛け合いながら楽しく活動することができ、娘共々とても素敵な時間を過ごさせていただきました。

お世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。



春の便りです。

今年も「キンラン」が咲きました



6～8月の活動予定

6月 ●18日：6月定例活動日

7月 ●16日：7月定例活動日

8月 ●20日：8月定例活動日

注) 詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）